

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日  
令和4年5月23日（月）
- 2 確認場所  
増設雑固体廃棄物焼却設備
- 3 確認項目  
増設雑固体廃棄物焼却設備の状況

### 4 確認結果の概要

増設雑固体廃棄物焼却設備は、事故で生じた瓦礫等の管理を適正に行うため、2017年から建設を開始し、ロータリーキルン<sup>※1</sup>摺動部の不具合や3月16日の地震により生じた設備の不具合の改修などを経て、5月11日から運転を開始した。しかし、5月13日に灰が詰まる不具合が発生し、運転を一時停止している。

今回は、灰詰まりの状況や地震により生じた不具合の改修状況について、増設雑固体廃棄物焼却設備にて東京電力から説明を受け、現場を確認した。

(図1) (前回確認：令和4年1月24日)

(東京電力からの聴取結果)

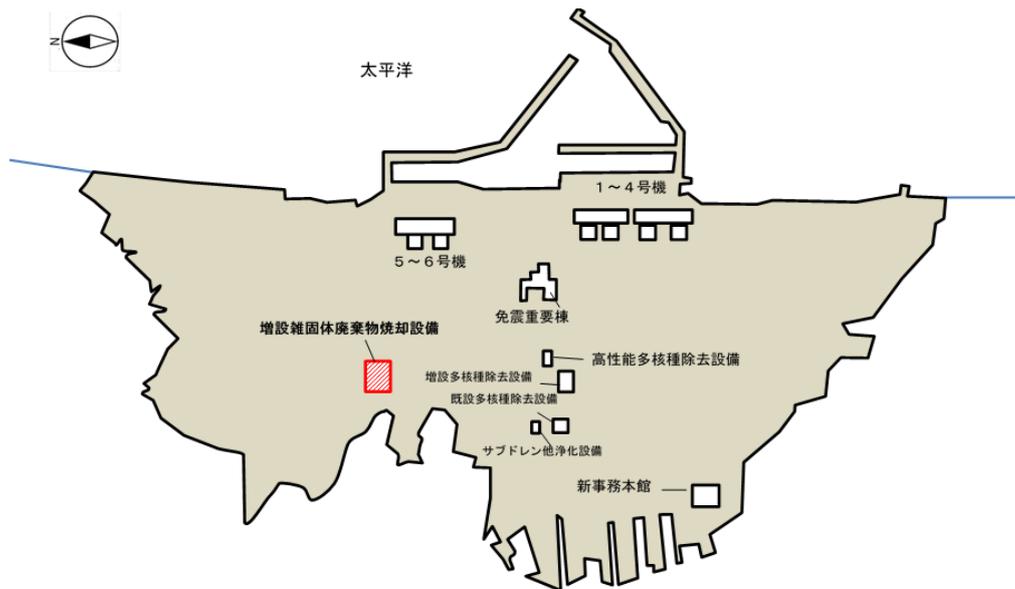
- ・今回灰が詰まったのは、ストーカ<sup>※2</sup>から主灰が落ちる部分である。(図2)
- ・原因としては、焼却対象廃棄物であるチップ化した伐採木の水分が想定よりも多いことがある。
- ・そのようなものを焼却しようとした結果、炉内の温度がうまく上がらず、燃えていない部分が発生し、主灰取出し部に溜まったものと思われる。
- ・今後は、助燃剤である軽油の制御を手動で行うことによって、炉内温度が適切になるように調整する。
- ・灰詰まりは既に解消しており、本日(5月23日)炉の昇温を開始し、明日(5月24日)朝から廃棄物の投入を再開する予定。

(増設雑固体廃棄物焼却設備の確認結果)

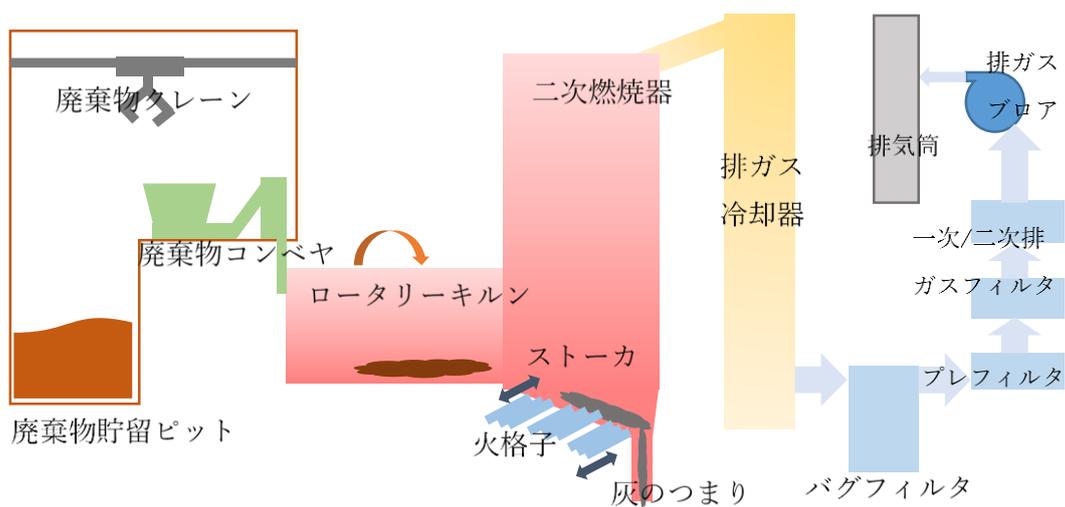
- ・3月16日の地震で損傷し、補修された部分として、建屋壁面の耐火ボードの補修部分を確認した。(写真1)(写真2)
- ・その他、廃棄物貯留ピット(写真3)、廃棄物クレーン(写真4)、廃棄物コンベヤ(写真5)、ロータリーキルン(写真6)など、設備の主要部分を確認した。

※1 ロータリーキルン：回転しながら対象物を燃焼させる形式の炉

※2 ストーカ：階段状の火格子が前後することで焼却させつつ燃焼対象物や灰を後段に送る形式の炉。本設備ではロータリーキルンの後段にストーカがある。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図2) 増設雑固体廃棄物焼却設備の模式図 (東京電力資料より作成)



(写真1)  
修理した耐火ボードの状況(1)  
(赤丸部分)



(写真2)  
修理した耐火ボードの状況(2)  
(赤丸部分)  
(廃棄物貯留ピットの上部)



(写真3)  
廃棄物貯留ピットの状況  
チップ化した伐採木が貯留されている。



(写真4)  
廃棄物クレーン  
廃棄物貯留ピットの上部にあり、  
ピット内部の廃棄物をコンベヤに運ぶ。



(写真5)  
ホップと廃棄物コンベヤ



(写真6)  
ロータリーキルン

- 5 プラント関連パラメータ等確認  
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。